

## 事実より真実を（8月号）

8月5日～11日は「わたしたちの同和問題週間」です。丸亀市ではこの週間に、同和問題の理解を深めるための様々な啓発に取り組んでいますが、ご家庭でも同和問題について話題にしていいただければ幸いです。

同和地区に対する誤解として、一部の事実を一般化するということがあります。同和地区住民にも同和地区外住民にも様々な人がおり、残念なことですが、それぞれの一部に法に触れる行為をする人がいるというのが真実です。ところが、同和地区住民が法に触れるような行為をした場合、その一部の事実を一般化し、同和地区全体でとらえられることがあります。このことが同和地区に対しての「悪いイメージ」に結びついていると考えられます。

この一部の事実を一般化するという事で思い出したことがあります。雑誌で取り上げられていたのですが、「超能力の数のトリック」という話です。50年ほど前、いわゆる超能力者と言われたアメリカ人 A さんが来日しました。テレビ番組で「今から1分間、超能力を送り、あなたたちの身の回りにある時計を止めます。時計が止まったら、ここに電話をしてください。」と語りかけると、その1分間に「時計が止まりました」と、ジャンジャン電話がかかってきたそうです。

どうして電話がかかってきたか、わかりますか。その当時は、ほとんどが電池式または、ゼンマイの柱時計、目覚まし時計、腕時計であって、非常に高い視聴率から考えると、計算上その1分間に何百個もの時計が止まるのが必然的ということです。（例えば視聴した家庭が2000万世帯、近くに時計が5個あるとすると1億個、1億個の時計が半年で電池切れ、

またはゼンマイ切れになるとすると、1分間に止まる時計は約400個) その番組では、何人もの人が興奮して「時計が止まりました」と電話があったそうです。そうになると、自分の時計が止まっていなくても「超能力だ。すごい。」となるのです。まさにこれは、一部の事実を一般化した数のトリックです。部落差別と同じです。同和地区住民にも同和地区外住民にも様々な人がいるということが真実です。一部の事実よりも真実を見極めることが大切です。

## 誰にも優しい表現を使ってみませんか（10月号）

日ごろ何気なく使っている言葉の中に、いやな思いをする人がいるかもしれないと思ったことはありませんか。

例えば、こんな言葉です。

その①「ここからお城まで徒歩 15 分ですよ。」

なるほど、かかる時間のイメージがわくように親切に伝えたものですが、人によっては 10 分ぐらいで歩ける人もいれば、20 分ぐらいかかる人もいます。また、車いすを使っていて徒歩ではいけない人もいます。誰でもが自分のペースでその距離やかかる時間をイメージできるように、次のように伝えるのはどうでしょうか。

⇒「ここからお城まで約 1 km ですよ。」

その②「自分のことは自分でしなさい。」

自分のこととは、服を着ること、食事をする事、トイレに行くことなど、様々なことがあります。自分のことを自分でできない人がいるかもしれないと想像すると、言い方が変わってくるのではないのでしょうか。誰でもが困らないように、次のように伝えるのはどうでしょうか。

⇒「自分でできることは自分でしなさい。」

そのほか、次のような表現にも配慮したいものです。

父兄⇒保護者　サラリーマン⇒勤労者　女医⇒医師　手短かに⇒簡潔に、短時間で

痴呆⇒認知症など

## 12月4日～10日は人権週間です（12月号）

1948（昭和23）年12月10日に、国連総会で「世界人権宣言」を採択しました。この宣言を受けて日本でも12月4日～10日を「人権週間」と設定し、人権に関連した様々な行事を行っています。この期間に、人権について話し合ってみてはいかがでしょうか。

今年を振り返ってみますと、人権に関連した大きな行事として東京パラリンピックが開催されました。すでに3か月がたちましたが、いまだにアスリートたちの活躍が昨日のこのように思い出されます。車いすテニスで優勝した国枝選手の涙の金メダル。スーパーショットを連発して優勝したボッチャの杉村選手。両腕がなく、卓球の球を足で跳ね上げ、口にくわえたラケットでサーブをし、頭や体をひねって強烈なスマッシュを打ち込んだエジプトのハマト選手等々。私たちの想像をはるかに超える技や卓越した身体能力、精神力に圧倒されました。障がいがあることを忘れて、一人のアスリートとして応援していました。パラリンピックの様々な競技をとおして、元気や勇気、さらには敬意の気持ちを抱いた人も多かったのではないのでしょうか。

また、試合後の選手のインタビューでは、勝ち負けより家族やスタッフへの感謝の気持ちが多く語られました。選手たちがもてる力を存分に発揮できるよう、選手と一緒に懸命な努力をしていた家族やサポーターの存在を知り、心が温くなりました。

コロナのせいで、ほぼ無観客だったのは残念ですが、連日パラアスリートの活躍を目にすることで、障がい者に対する意識が大きく変わる転機になったのではないのでしょうか。今回の東京パラリンピックの選手の活躍は、私たちの心の中に大きな財産として残りました。

## 人類はみな同じと言うけれど（2月号）

人類はみな同じ人間だと言うけれども、黒人と白人は外見上、同じには見えません。

実は、肌の色は、紫外線の強弱の違いという環境によって決まります。

緯度の低い赤道近くは紫外線が強いところです。紫外線は私たちが骨格を形成するために必要なものですが、浴びすぎると、皮膚がんや皮膚の炎症を起こします。赤道近くに住む人にとっては、肌の色が黒い（メラニン色素が多い）ほど、紫外線をより多くさえぎり、生き残りやすくなります。このようなことから赤道近くに住む人の肌の色は黒くなっていきました。

反対に緯度が高い北欧などは、紫外線が弱いところです。私たちにとって紫外線は必要不可欠なもので、紫外線が当たることによって、体内でビタミンDが作られます。このビタミンDがカルシウムの吸収を助け、骨がつくられます。ビタミンDが少ないと骨が十分に形成されず、骨の病気になります。このようなことから、緯度が高いところに住んでいる人にとっては、肌の色が白い（メラニン色素が少ない）ほど、紫外線をたくさん肌に取り入れられるので、生き残りやすいのです。このようなことから緯度の高いところに住む人の肌の色は白くなっていきました。

私たち人類は、約20万年前にアフリカで、突然変異によって一人の黒人女性が誕生したのが起源と言われています。その後、私たちの祖先はアフリカを出て、全世界に広がり、それぞれの環境に合わせて肌の色を変えることで生き残ってきました。私たち人類は、肌の色は違いますが、生物学的にはホモサピエンスという一種類しかありません。黒人も白人も、

温帯地方に住む黄色の日本人も、精神の発達や知能に差異はありません。見た目は違いますが、人類はみな同じです。